

ダイオキシン血中濃度調査結果

環境省



環境省は、ダイオキシン類の蓄積状況を把握する事を目的に、経年的に実態調査を行うとともに環境媒体を経由した人への暴露状況の調査を行いました。

この調査は、2002 年度に実施され、人の体内に蓄積されたダイオキシン類濃度の初の全国調査結果となり、健康に影響するほどの蓄積はなく、血中濃度の比較では地域間に有意差はなかったとしています。これは体内へ摂取するダイオキシン類のほとんどが食事によるもので、食事内容が全国的に平準化しているためと考えられます。

また、廃棄物焼却施設からのダイオキシン類排出が問題となった大阪府能勢町地域および埼玉県所沢などの3市地域の2ヶ所における血中濃度の経年変化では、前年と同水準で推移し、平均値も全国水準にとどまっています。

蓄積量調査では、北海道東北、関東甲信越、東海北陸近畿、中国四国、九州沖縄の5地域の都市地区、農村地区、漁村地区の対象者259人に対して血液中のダイオキシン類濃度測定および食事のダイオキシン類濃度測定を行い、継続調査では大阪府能勢町地域と埼玉県地域の43人に対して血液測定を実施しています。調査結果は以下の通りになります。

・血液中のダイオキシン類濃度

対象者全員の平均値 27pg-TEQ/g-fat (血中脂肪1gあたり)

5地域の平均値の範囲 22~34pg-TEQ/g-fat

・食事経由のダイオキシン類摂取量

対象者全員の平均値 1.3pg-TEQ/kg 体重/日 (1日体重1kgあたり)

5地域の平均値の範囲 0.93~1.8pg-TEQ/kg 体重/日

・継続調査

平均値 26~27pg-TEQ/g-fat

この調査結果により、加齢により血液中のダイオキシン類濃度が増加する傾向にあることや血中濃度と食事経由の摂取量に関連があることが分かり、また地域により優位差が認められなかったことが指摘されています。

前年度の各環境媒体などの調査結果から個人の総暴露量の推計などを行う暴露実態調査の結果では、個人総暴露量は1.68pg-TEQ/kg/日となり、ダイオキシン類のTDI(許容摂取量)の4pg-TEQ/kg/日の半分以下となっています。

資料:2004年2月23日付 化学工業日報 P.12

クロマト研究箇所 山田 悠貴

事業内容

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 1 環境管理に伴う調査・測定・化学分析 | 5 土壌汚染対策法に基づく土壌汚染状況調査 |
| 2 ダイオキシン類に係る濃度計量証明 | 6 労働衛生管理に伴う作業環境測定 |
| 3 ビル管理に伴う水質検査・空気環境測定 | 7 トータルサニテーション管理 |
| 4 水道法第20条に基づく水質検査 | 8 委託試験・研究・開発 |

